

戦場へ行かない戦争体験記

吉岡 謙 さん

1945年8月15日に太平洋戦争が終わった。我が家や身内にはこの大戦によって死亡した者はおらず。家も戦災には会わなかったが、私の戦争体験は終戦から始まった。私は当時、小学3年生だった。

戦後間もなく、戦勝国の⁽¹⁾連合軍が我が国へ⁽²⁾進駐して来た。倉敷には、現在東中学校が建っている所にあった日本軍の軍服などを作っていた⁽³⁾被服廠の工場が進駐軍に⁽⁴⁾接收され、そこへ連合軍が進駐していた。

その際に、私が住んでいた家は、⁽⁵⁾山麓の小高いところにあって、外観が洋館風だった為に、駐留しているところから目立って見えていたらしく、駐留している軍の高官の住宅として接收され、立ち退きを命じられた。

父は貧乏学者だったが、本や資料が大量にあった為に、それらが収まる家が必要だったので、進駐軍が指定した立ち退き期限内には転居できそうになく困ったが、近所の養鶏家の善意で、空いていた鶏舎の一部へ、本や資料と共にかろうじて引越した。その後まもなく、養鶏場の事務所として使っていたと思われる建物を手入れして、一間だけの畳敷の部屋を作って住居として貸してくださり、本や資料は鶏舎へ置いたまま人間だけが移り住んだ。

何か月か経って、白楽町に住んでいる父の⁽⁶⁾遠縁から、貸していた借家が空いたとの連絡があり、そこへ転居して1年以上を過ごしたと思う。

その後、進駐軍は撤退して、私の家は返還されたが、原状には戻されてなく、補償も全く無かったが、敗戦国の悲しさで、文句ひとつ言えなかった。

喜んで我が家に帰ったが、そのあまりの変わり様にびっくりした。我が家は市の台帳によれば、1928年の建築で、設計は有名な建築家の西村伊作^{いさく}で、現在は岡山県近代化遺産になっている。

しかし進駐軍は、外壁の小さな砂利を含んだ凹凸のある漆喰壁⁽⁷⁾_{しゅくい}は、全体にペンキで塗りつぶして、玄関から道路までの間には、雨除けらしい廊下のようなものが付けられ、家の東側には二間が増築され、南側にあったテラスは撤去されて接している部屋が広がられていた。家の裏には、高さが4 m位の屋根だけで壁のないボイラー建屋ができていて、風呂給湯用のボイラーが据えられていた。その隣には現場打ち⁽⁸⁾の形だけの自然曝気⁽⁹⁾_{ばっき}式の浄化槽が埋められていた。

家の中に入ると、家中の壁や建具などにはすべてペンキが塗られ、和室の板の天井は漆喰^{しゅくい}で塗られた上にペンキが塗ってあった。廊下・洋室・トイレ・洗面所・台所・階段などの床や踏面⁽¹⁰⁾は、土砂が付着した靴で歩いた為に傷だらけで、ささくれているところが多く、とても裸足では歩けなくなっていた。和室の畳は全部上げられて、そのままだと床面が低くなるので、床上げされていた。風呂は大きくて長いタイル貼りの浴槽に変わっていたが、この風呂に入浴できるだけの湯を張るには、当時薪灰屋⁽¹¹⁾で売られていた「まき」が約6把必要で、入浴には大変苦労した。トイレは水洗になっていたが、長期の使用は考えていなかったらしく、浄化槽の蓋はコンクリートで塗り固められていて、浄化槽の管理は不可能になっていた。

進駐軍が行ったりリフォームはもの凄くお粗末で、返還後入居してから後、何部屋もの漆喰天井が落ちたり、建具が曲がって動かなくなった為に隙間が出来て雨風が入ってくる有様で、その都度手入れして生活してきた。

畳敷の和室は畳を上げて床上げされていたので、そのまま畳を入れるとドアの開閉が出来なくなるために、大工に頼んで切り下げて畳を敷いた。

その他のところには、持ち帰った父の本や資料が山積みになっており、父はそのどの位置にどのような本や資料があるのかを良く憶えていて、家人がそれらに触って動かすと分からなくなると言う事から、父が亡くなるまでは本や資料の移動を伴う改修工事は出来なかった。

我が家が進駐軍に接收されて40年以上経って、父が亡くなった翌年の1987年か

ら、ようやく本格的に改修を行うことができた。長期間にわたってかなりの費用を必要としたが、建築に詳しい人に言わせると、費用の面からだと一度全部壊して立て替えた方が安くついたはずとの事だった。

戦争体験と言うと、戦争で亡くなった人々や家を空襲で焼かれたことなどに思いが行くのは当然だとは思いますが、私達のようなこともあったのだと言う事を知っていただき、私達のような犠牲者を2度と作る事の無い世の中になるよう願っている。

-
- 1 連合軍...ドイツ、イタリア、日本と敵対したアメリカ、イギリス、中華民国、ソビエト連邦などの国家連合軍。
 - 2 進駐...軍隊が他国の領土内に進軍し、そこにある期間とどまること。。
 - 3 被服廠...旧日本陸軍部隊に支給する被服品の調達、分配、製造、貯蔵を担当した工場と、これを統括した機関の総称。
 - 4 接收...国などの権力機関が、個人の所有物を強制的に取り上げること。。
 - 5 山麓...山地と平地の境界部。
 - 6 遠縁...遠い血縁。また、その人。
 - 7 漆喰...消石灰に粘着性物質と麻糸などの繊維を加え、水でよく練り合わせたもの。砂や粘土を加えることもある。壁や天井などを塗る。。
 - 8 現場打ち...コンクリートやリベットを工事現場で打ち込むこと。。
 - 9 曝気...空気と排水とを接触させて酸素を供給すること。水質の浄化を行う微生物に酸素を供給する基本的な方法
 - 10 踏面...階段の足を載せる板の上面。
 - 11 薪炭...たきぎとすみ。